

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：82406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10970

研究課題名（和文）一般病院がん患者に対する看護師が行うディグニティセラピーの効果と紹介基準の検討

研究課題名（英文）Examining the effectiveness and referral criteria of dignity therapy performed by nurses for cancer patients in general hospitals

研究代表者

伴 佳子（Ban, Keiko）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・准教授

研究者番号：80726498

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、参加型アクションリサーチアプローチを用いてA総合病院においてディグニティセラピーを実践するためのプロジェクトチームを病院看護師とともに編成し、セラピストの養成、実践プロトコルのなど、実践のための基盤を整えた。さらに終末期がん患者および再発がん患者に対してディグニティセラピーを実践し、精神的安寧や実存的苦痛の緩和の効果があることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、海外では効果が検証されているにもかかわらず拒否率の高さから日本での実施可能性は低いとされたディグニティセラピーを、ホスピスや在宅ではなく、一般病院において看護師が実践することに意義がある。加えて、ディグニティセラピーの実践をとおして、終末期がん患者のみではなく再発がん患者に対しても実存的苦痛の緩和に効果があることを明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we formed a project team with hospital nurses to practice dignity therapy at General Hospital A using a participatory action research approach, and prepared the foundation for practice, such as training therapists and creating a practice protocol. Furthermore, he practiced dignity therapy on terminally ill and recurrent cancer patients and found that it was effective in alleviating psychological well-being and existential pain.

研究分野：緩和ケア

キーワード：ディグニティセラピー がん患者 一般病院 看護師

1. 研究開始当初の背景

ディグニティセラピー(以下 DT)は、終末期患者の実存的苦痛を緩和する簡便な介入法としてカナダで開発された。9つの質問をとおして、「自分にとっての大切なこと」を永久保存記録の文書(手紙)に残し、「自分の大切な人」に渡すというプロセスを通じて、患者の過去を振り返り、自分が大切にしていること、大切にしている人への思いや希望などを再確認する数日で終結可能な精神療法的アプローチである。DT は構造化されており、臨床心理士などの専門家だけでなくその理論や方法を身につければ看護師も実施可能である。

わが国のがん死亡数は約 37 万人であり国民の3人に1人はがんにより死亡している。そして、がん患者の約7割が緩和ケア病棟以外の診療所・病院で亡くなっている。多死時代に向けて死亡者数は益々増加することが予想され、在宅医療への移行が進められている。しかし、一般病院は、在宅医や終末期がん患者にとって急変時や必要時の「後方支援」としての役割を担い、在宅で療養していても最期は一般病院に入院することが多い。

平成 30 年に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画では、全体目標の一つに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築が掲げられており、一般病院においても、尊厳を維持するケアは重要である。

DT の効果について、海外においては多くのランダム化比較試験が行われ、QOL の向上、尊厳感の増大などが報告されている。日本においては、2008 年に大規模な多施設共同研究が行われ、10 例の症例集積が終了した段階で参加への拒否率が 86%にのぼったため、日本では実施可能性が低いと判断して臨床試験は中止された。半数以上に尊厳や現状の意味の向上、家族への有益性などが認められた反面、参加への拒否率が高く適切な対象を選択することが課題であった。

最近では、一部のホスピスや在宅、がんセンターなどにおいて DT が導入されており、実践報告などから意味の向上や穏やかさの増強などの効果が示唆されている。しかし、一般病院はホスピスや在宅と異なり、治療をしたい、生き続けたいと願う患者が多く、「大切なことを残す」という DT は、生きる願いと反するものとして拒否される可能性が高い。これは、どのような患者に DT を紹介するかが重要であり、十分な検討を要することを意味している。

以上より、DT は日本において実施可能か、日本人への DT の効果はどのようなものか、どのような対象に DT を紹介するかが、研究課題の核心をなす学術的「問い」として存在している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、一般病院のがん患者に対して看護師が実施する DT の紹介基準を作成するとともに、その効果を明らかにすることであった。

3. 研究の方法

1)DT 実践のための基盤整備

A 総合病院において参加型アクションリサーチアプローチ (community-based participatory research, 以下, CBPR)を用いて、DT を実践するためのプロジェクトチームを病院看護師と共に編成し月 1 回のミーティングを実施した。編成当初、メンバーが DT を実践するために、がん専門看護師がメンバーに対して DT に関する教育を実施、ミーティングにおいて DT 実践に必要な事項を検討し作成した。

2)DT の実践と効果、紹介基準の検討

一般病院のがん患者に対して DT プロトコルに沿って、DT を実践、前後に DT の効果に関してアンケート及びインタビューを実施した。また、ミーティングにおいてディグニティセラピー紹介基準や効果について検討した。ミーティングの会話を録音して逐語録化し、ミーティング内容は会議録に残した。この逐語録と会議録をデータとして分析した。

4. 研究成果

1)DT 実践のための基盤整備

(1) セラピストの養成

現状において、DT を実践するにあたり特別な資格は必要ではない。本研究では、メンバー、および DT 実践を希望する緩和ケア経験5年以上の看護師を対象に独自のトレーニングを実施し、11 名のセラピストを養成した。

(2) DT 実践に必要な事項の整備

ミーティングにおいて検討を重ね、DT を患者に紹介するための「DT のリーフレット」、DT 実践のための「DT 実践プロトコル」「DT 質問票」を作成した。研究成果は学会誌に投稿した。

2)DT の実践と効果、紹介基準の検討

(1) DT の実践

4例に対して DT を実践し、国内外の学会において発表するとともに学会誌に投稿した。一方で、メンバーが実際に DT の実践を試みたが、進まない傾向にあるという現状があった。そこで、ミーティングの記録を分析し、実践が進まない要因は、患者側の要因と看護師側の要因があることが明らかとなった。詳細を投稿予定である。

(2) 効果、紹介基準の検討

DT は、尊厳を高める、生きる意味や希望の再認識、自己の状況の受容、前向きに病気と向き合う力の醸成、さらに、DT は死生観を語る人や場の提供、となり患者の安寧につながるなどの効果があることが明らかとなった。

Chochinov が提示している DT の適格基準は、生命を脅かすか生命予後を限定する状況に直面している、DT に関心があり参加を動機づけられている、である。本研究において DT は、終末期がん患者のみでなく、再発がん患者に対しても有効であることが明らかとなった。これらの適格基準に加えて、一般病院のがん患者に対して看護師が実践する DT のより具体的な紹介基準については分析中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 伴 佳子、寺内 千佳子、是木 文絵、穴井 美鈴、小森 直美、高橋 はるな、岩崎 多津代、宮川 京子、菅原 恵子、池尻 操、濱田 彩	4. 巻 37
2. 論文標題 総合病院で化学療法中の再発がん患者に対して看護師が実践したディグニティセラピー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 187-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18906/jjscn.37_187_ban	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伴 佳子、穴井 美鈴、宮川 京子、菅原 恵子、池尻 操、濱田 彩、是木 文絵、館林 直美、高橋 はるな、寺内 千佳子、岩崎 多津代	4. 巻 68
2. 論文標題 看護師が終末期乳がん患者にディグニティセラピーを実施した1例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 防衛衛生	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Keiko Ban, Naomi Komori, Misuzu Anai, Haruna Takahashi, Tatsuyo Iwasaki, Keiko Sugahara, Kyouko Myakawa, Misao Ikejiri, Aya Hamada, Chikako Terauchi, Fumie Koreki
2. 発表標題 Obstacles to the Introduction of Dignity Therapy Implemented by Nurses in Japanese General Hospitals: Analysis by data mining
3. 学会等名 International Conference on Cancer Nursing 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伴 佳子、小森 直美、高橋 はるな、菅原 恵子、穴井 美鈴、岩崎 多津代、濱田 彩、池尻 操
2. 発表標題 看護師が実践するディグニティセラピーに対する実践経験者の認識
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伴 佳子, 穴井 美鈴, 宮川 京子, 池尻 操, 濱田 彩, 菅原 恵子, 岩崎 多津代, 高橋 はるな, 小森 直美
2. 発表標題 一般病院において看護師が再発がん患者にディグニティセラピーを実施した1例
3. 学会等名 第37回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keiko Ban, Kyouko Myakawa, Misao Ikejiri, Keiko Sugahara, Tatsuyo Iwasaki, Aya Hamada, Misuzu Anai, Fumie Koreki, Naomi Tatebayashi, Naomi Komori, Haruna Takahashi, Chikako Terauchi
2. 発表標題 Nurses' perception on selecting patients with cancer for dignity therapy in general hospitals in Japan
3. 学会等名 International Conference on Cancer Nursing 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 穴井美鈴, 宮川京子, 池尻操, 濱田彩, 伴佳子, 是木文絵, 館林直美, 高橋はるな, 菅原恵子, 小森直美, 岩崎多津代
2. 発表標題 終末期乳がん患者にディグニティセラピーを実施した実践報告
3. 学会等名 第65回日本防衛衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅原恵子, 伴佳子, 穴井美鈴, 宮川京子, 池尻操, 岩崎多津代, 是木文絵, 濱田彩, 館林直美, 寺内千佳子, 小森直美, 高橋はるな
2. 発表標題 看護師がディグニティセラピー実践に対して認識した効果と障壁
3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Ban, Keiko Sugahara, Kyouko Myakawa, Misao Ikejiri, Tatsuyo Iwasaki, Misuzu Anai, Fumie Koreki, Aya Hamada, Naomi Tatebayashi, Naomi Komori, Haruna Takahashi, Chikako Terauchi
2. 発表標題 Experiences of a nurse who conducted dignity therapy for a patient with terminal lung cancer in a general hospital in Japan
3. 学会等名 the 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伴佳子, 穴井美鈴, 宮川京子, 池尻操, 菅原恵子, 岩崎多津代, 濱田彩, 小森直美, 高橋はるな
2. 発表標題 一般病院において終末期乳がん患者にディグニティセラピーを実施した看護師の体験
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小森 直美 (Komori Naomi) (70438307)	湘南鎌倉医療大学・看護学部・教授 (32729)	
研究分担者	高橋 はるな (Takahashi Haruna) (60779578)	防衛医科大学校 (医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・助教 (82406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------